

# 平成30年度 事業報告

## I はじめに

平成30年度における我が国の社会経済情勢をふりかえると、長期にわたる緩やかな景気回復が続きました。輸出はおおむね横ばいでしたが、企業収益は過去最高を更新し、生産年齢人口が減少する中、女性や高齢者の就業者数が大幅に増加するなど、雇用・所得環境の改善により個人消費の持ち直しが続きました。

ただし、家計部門では、所得の伸びと比べると、昨年夏に相次いだ自然災害の影響もあって、消費はやや力強さに欠ける面がありました。

また、企業部門では、収益が大幅に改善し、設備投資にも前向きな動きがみられましたが、人手不足への対応が大きな課題となりました。

一方で、雇用情勢は着実に改善しており、全国の有効求人倍率は高い水準となり、完全失業率は低い水準となりました。その結果、総人口が減少傾向にある中で、女性の活躍推進や高齢者の雇用促進に関する各種施策により、女性や高齢者を中心に就業率は上昇しました。

ただ、この状況にあっても企業における人手不足が深刻化しており、長期的にみると、少子高齢化等の構造的な問題や、生産性向上の低迷等の問題が依然として存在しています。また、今後はAI等の技術革新により、仕事や働き方を取り巻く環境が大きく変化することが見込まれています。

上記の課題や変化を踏まえ、経済活力を維持・発展させていくためには、高齢者や女性、外国人材等の「多様な人々が活躍できる社会の推進」を図っていくことが必要とされています。

社会参加を希望する高齢者に対して、その希望に応じた就業機会を確保・提供するシルバー人材センター事業こそが、今まさに求められているところです。

こうした中、公益社団法人として8年目を迎えた中野区シルバー人材センター（以下「センター」という）は、事業の基軸と位置付けている従来からの請負事業と、平成29年度から開始した新規事業であるシルバー派遣事業に取り組みました。その結果、請負事業については、自転車駐車場管理業務等の新規契約の受託により公共の契約金額は増えたものの、会員数の減少等が影響し、企業や家庭の契約金額が落ち込み、昨年度を上回る実績をあげることができませんでした。

シルバー派遣事業については、初年度1件の契約で開始しましたが、2年目を迎えた平成30年度は9件の契約でスタートし、最終的には11件の契約となり、昨年度を大きく上回る実績をあげることができました。

請負事業の契約金額は6億5千万円余円で、昨年度との比較で2.8%減となりました。一方、シルバー派遣事業の契約金額は2千8百万円余りで、昨年度との比較で421%増と大きく上回りました。この結果を受け、請負事業とシルバー派遣事業の合計契約金額は6億8千万円余りとなり、計画目標であった6億8千万円を達成することができました。

受託件数〔請負事業のみ〕につきましては15,404件で、3.3%減となり計画目標を上回ることはできませんでした。

就業状況〔請負事業のみ〕については、1,469人の会員に対し、1,194人(延べ40,754人)が就業し、就業率は81.3%になりました。

会員の入退会については、年間入会者数は昨年度を31人上回ったものの、年間退会者数が昨年度を32人上回ったため、平成30年度末には会員数が前年度比でほぼ横ばいとなりました。なお、退会の主な理由は、健康、転居及び会費未納によるものでした。

当センターとしては、組織の根幹ともいえる会員が年々減少傾向にあったことから、会員の増強及び受注拡大を目的に、昨年に引き続き会員募集に特化したチラシを作成し、センターの全体的なPRチラシとあわせて78名の協力会員により各戸配布しました。他にも区民対象の各種講習会の開催、各種ボランティア活動に積極的に参加しPRに努めました。また、8回目となる「シルバーまつり」の開催及び中野区のイベント等への参加、区役所1階ロビーでのPR活動、新たに薬師あいロード商店街の「あいロード広場」でのPR活動を行うなど、昨年度にも増してセンターのPRに努めました。

重点事業である家事援助・子育て支援・福祉サービス事業については、昨年度に引き続き区内をブロックに分け、会員コーディネーターを配置して、地域の多様なニーズにきめ細かく対応するよう努めました。

また、平成29年4月より本格実施しました「介護予防・生活支援サービス事業」も2年目を迎え、件数増減の変動があったものの、最終的には22件の契約となり、要支援対象に該当する区民の皆さんの、お役に立つことができました。

一方、単発的な作業を担う「暮らしのサポート隊」は、アパート等の空き部屋清掃のほか、植木の水遣り・荷物整理・片付けや家具移動など多岐にわたる様々な注文に対して、迅速な対応と丁寧な仕事に努めた結果、より多くのお客様からの信頼を得ることができ、昨年度を29.4%上回る1千140万円余の実績をあげることができました。

家事援助・子育て支援・福祉サービス事業の全体的な実績としては、就業会員不足の状況が続く中、事務局や家事援助コーディネーターが、会員と綿密な連絡・調整を行い、可能な限り新規受注や既存契約のお客様対応に努めた結果、昨年度との比較でほぼ横ばいの9千700万円余の実績をあげることができました。

## II 事業推進の概要

平成30年度においても、センターを取り巻く環境は引き続き厳しい状況でしたが、社会参加の意欲ある健康な高齢者に対し、地域社会と連携を保ちながら、その希望、知識及び経験に応じた就業ならびに、社会奉仕等の活動機会を通じ活力ある地域社会づくりに寄与するため、次の基本方針のもと積極的に事業を実施しました。

- (1) 高齢者の就業についての普及、啓発活動の推進
- (2) 高齢者に適した就業機会の確保・提供
- (3) 高齢者の就業についての知識・技能向上のための講習等の実施
- (4) 安全就業についての啓発・指導の徹底及び安全就業対策の推進
- (5) 会員の入会促進、会員相互の連携及び社会奉仕活動の推進
- (6) 多様な就業機会確保のためシルバー派遣事業を拡充

## III 事業実施報告

高齢者の豊かな経験と知識を生かした質の高いサービスの提供に努めるとともに、区民の暮らしに身近な就業を通じて地域社会に貢献するなど、「自主・自立」「共働・共助」

の理念に基づき、次の事業を実施しました。

## 1 事業実績〔定款第4条1号事業〕

### 【請負事業】

① 事業実績	651,909,870円
② 就業延人員	156,583人日
③ 受託件数	15,404件

### 【シルバー派遣事業】

① 事業実績	28,789,070円
② 就業延人員	5,705人日
③ 受託件数	126件

### 【請負事業とシルバー派遣事業の合計】

① 事業実績	680,698,940円
② 就業延人員	162,288人日
③ 受託件数	15,530件

## 2 広報・宣伝活動の推進〔定款第4条1号事業〕

### (1) 会員の動態について

① 平成30年度末会員数	1,469人
② 入退会者数	入会者 212人 / 退会者 221人

### (2) 事業の広報・宣伝活動の推進

- ① 機関紙を発行し、センターの活動を幅広く掲載し、会員及び関係方面に配布して事業のPRに努めました。

#### ◇機関紙「シルバーなかの」発行（年4回）

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| ・第135号（4月30日号）  | ・第136号（7月31日号） |
| ・第137号（10月31日号） | ・第138号（1月31日号） |

#### ◇機関紙「シルバー速報」発行（年8回）

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ・第347号（5月31日号）  | ・第348号（6月30日号）  |
| ・第349号（8月31日号）  | ・第350号（9月30日号）  |
| ・第351号（11月30日号） | ・第352号（12月31日号） |
| ・第353号（2月28日号）  | ・第354号（3月31日号）  |

- ② スマートフォンや携帯電話等からアクセスしても、快適に閲覧できる当センターのホームページを有効に活用して、幅広い世代の方々に事業内容等の情報を発信し、会員の加入促進及び受注の拡大を図りました。

また、活字だけではなく動画でPRすることにより、センターへの興味・関心を高めることを目的に、ホームページ内の「写真・動画ギャラリー」で会長のセンター紹介動画を公開しました。

- ③ 平成30年度中に区内の家庭に対し、「案内・会員募集チラシ」を8万3千枚配布し、会員の加入促進や受注の拡大に努めました。また、昨年に引き続き、中野区町会連合会の協力を得て、区内全域及び会員不足が見込まれる地域において、町会・自治会の回覧を通じ、会員募集のチラシ8,300枚の回覧を行いました。
- ④ マンション等の清掃業務及び広報誌の配布を担う会員数が少ないため、この職種に特化したチラシを、22名の協力会員により、地域を限定して約2万3千枚配布し会員の加入促進に努めました。
- ⑤ 会員増強を目的として、平成30年7月に北部分室、平成31年2月に江古田分室で、出張形式による入会登録説明会を開催し、25名の会員入会につなげました。
- ⑥ 就業や各種会議を通じて事業の周知を図り、会員自身の口コミ等によるPR活動により、受注の拡大・会員の加入促進に努めました。
- ⑦ 区民を対象に「パソコン」「ふすま・障子はり」等の講習会を開催し、センター事業のPRに努めました。
- ⑧ ケーブルテレビのジェイコム中野を通じ、事業活動時やイベント時におけるセンター情報を積極的に提供し、映像による広報に努めました。
- ⑨ 平成30年10月「第8回シルバーまつり」をなかのZERO小ホールにて開催し、開演前の時間を利用してセンター事業のPRに努めました。

当日は、満席となる500名の方々にご来場いただき、地域への文化的貢献として武蔵野音楽大学学生による「弦楽四重奏&室内楽の調べ」を催しました。

また、同ホール2階ロビーに「地域班等の活動紹介コーナー」を設け、各班・ブロックの活動写真や資料、会員の特技を生かした作品展示のほか、仕事紹介DVD（仕事のビフォー・アフター）を流すなど、センター事業を幅広くPRしました。
- ⑩ センターの普及強調月間にあたる平成30年10月に「中野にぎわいフェスタ2018」、11月には「なかのまちめぐり博覧会」など、中野区主催のイベントに積極的に参加し、PR用チラシやリーフレット等を配布しました。また、昨年に引き続きチンドン屋による街頭宣伝活動や、子ども向けの景品が当たる輪投げゲーム等を通じて、センター事業への理解とPRに努めました。
- ⑪ 昨年に引き続き、平成31年2月に2日間にわたり、中野区役所1階ロビーにてセンターのチラシ、ポスター、パネル展示によるPR活動を行いました。
- ⑫ 新たな試みとして、平成31年3月に薬師あいロード商店街の「あいロード広場」にて、PR用チラシやポケットティッシュを配布し、センターのPRに努めました。
- ⑬ 中野区の発行する「生涯学習・スポーツガイドブック2018」に記事（講習会、各種講座）を掲載し、センター事業のPRに努めました。
- ⑭ 平成31年3月3日（日）「東京マラソン祭り2019」に会員35名が参加し、ボランティア活動を通じてセンター事業への理解とPRに努めました。
- ⑮ なかの生涯学習大学の講座に出向き、会員増強を目的としたPRに努めました。
- ⑯ 主に女性会員の入会促進を目的に、中野区を中心に近隣区を含め約14万部配布されている「リビング」（サンケイリビング新聞社発行）に、センター広告を4月及び10月の中野特集号に掲載しPRに努めました。
- ⑰ 中野区役所1階ロビーに設置されている自治体情報案内図（シティナビタ）及び中野区提供の就労・求人支援サイトにセンター広告を掲載し、センター事業のPRに努めました。

- ⑱ 「なかの区報」にセンターの会員募集広告を掲載し、新規会員の獲得に努めました。
- ⑲ 郵便局の窓口用封筒にセンターの広告を掲載し、PRに努めました。
- ⑳ 友愛クラブの会報にセンターの広告を掲載し、PRに努めました。

### 3 しごとの開拓と提供〔定款第4条1号事業〕

#### (1) 就業確保の取組み

- ① 事業所、一般家庭、官公庁に対し、センター事業のPR活動を行い、就業機会の開拓を行いました。
- ② センターの受託可能な仕事をわかりやすくホームページ等で情報を提供するとともに、一般家庭を中心にチラシやリーフレット等を配布し受注の開拓に努めました。
- ③ 江古田分室で行っている「手内職作業」の仕事を安定的に確保するため、事業者等へ声がけをして受注の開拓を図りました。
- ④ 保育園での保育補助業務等の受注を目的に、新規開設予定の保育園に派遣事業のPR活動を行い、就業機会の開拓に努めました。
- ⑤ 「シルバー速報」「シルバーなかの」に仕事情報を掲載するとともに、ホームページの活用等により仕事情報の共有化と就業の促進を図りました。
- ⑥ 就業に関する情報収集のため会員懇談会を開催しました。(14班×2回)
  - ◇第1回 平成30年5月29日～6月20日 (227名出席)
  - ◇第2回 平成30年11月7日～12月14日 (228名出席)

#### (2) 家庭・子育て事業の推進

- ① 家事・福祉・子育て支援サービス事業推進のため、地域の関係機関・団体と連携を図り、それぞれのニーズに沿ったきめ細かなサービスの提供に努めました。
- ② 中野区内をブロックに分け、それぞれに会員コーディネーターを配置し、迅速で丁寧な受注対応を目指しました。また、会員コーディネーターを中心に懇談会を開催し、会員同士の信頼を深め、事業の拡大に努めました。
- ③ 子育て支援サービスでは、産前・産後の支援をはじめ、塾や習い事の送迎も増え、子育てに対する相談も多く寄せられました。これに対し、子育ての相談窓口を充実するとともに、コーディネーターと会員との情報共有化を図り、豊かな経験と知識を生かし、地域の子育てを支援しました。
- ④ 「やさしさと笑顔で暮らしのお手伝い」のスローガンのもとに、センターらしいきめ細やかなサービスの提供に努めました。また、就業会員に「就業ノート」を配付し、お客様とのコミュニケーション等に活用することにより、仕事を円滑に進めることができました。その結果、一般家庭での家事・子育て支援サービス及び育児支の受注拡大につながりました。
- ⑤ 良質なサービスを提供できるように、家事・福祉・子育て支援に関する各種研修・講習会を実施しました。
- ⑥ 介護保険制度の改正に伴い、平成29年4月から「介護予防・生活支援サービス事業」が本格実施され、平成30年度は22件の契約実績でした。事務局と家事援助コーディネーターが相互に連絡・協力・調整しながら事業をすすめた結果、会員の就業機会を確保し、円滑に業務を遂行することができました。
- ⑦ 継続的な家事援助・暮らしのサポート隊に、新たに開始した生活援助サービスと、家事援助の会員募集を含めたチラシを作成し、PRに努めました。

### (3) 職群班活動の充実と人材育成について

職群班活動については、仕事別グループの組織化を推進するとともに、職群班会議を開催し、会員の技能レベルアップを図り、サービスの質的向上を目指しました。

会員数が減少傾向にあった除草班については、昨年同様、除草を希望する会員に対して、新人研修を随時実施し、会員数の確保や後継者の育成に努めました。また、植木班についても、後継者の育成が喫緊の課題でしたが、ベテラン会員の指導による研修を実施するなど、後継者の育成に努めました。

### (4) 暮らしのサポート隊事業の推進

① チラシを配布するなど事業のPRに努めるとともに、会員の就業参加を促進し、会員の経験や知識を活用した仕事の拡大に努めました。

② 事業のサービス力向上のため、暮らしのサポート隊会議等を開催し会員同士の情報共有を図りました。

また、事業推進コーディネーターによる作業現場での会員研修を、積極的に実施し技術・知識の向上に努めました。

### (5) 自主事業の拡充

小中学生の学習教室については、少子化等の影響もあり、受講生を確保することが厳しい状況でした。講師会員の方々は、少ない生徒数でも熱心に指導にあたりましたが、実績額は昨年度を下回りました。

パソコン教室については、新たなカリキュラムに取り組むなど事業拡大や受講生の確保に努めました。タブレットやスマートフォン普及の影響もあり、実績額は昨年度とほぼ横ばいでしたが、受講者数は微減となりました。

英会話教室については、受講者数の減少が影響し実績額は昨年度を下回りました。

暮らしの書道については、受講生の入れ替りはあったものの、昨年度を上回る実績をあげることができました。

その他、万葉集講座は根強い人気がありますが、長年通っていただいている受講生の高齢化が進み、講座をお辞めになる方もあり、それに伴い実績額は微減でした。

### (6) 事務系職種の仕事拡充

会員の希望、保有する資格・能力・技術等を踏まえた上で、公共施設の管理や事務系職場の開拓に努めました。事務系の就業拡大は厳しい分野ですが、昨年度に引き続き公共施設の受付業務を受注することができました。

### (7) 就業機会の提供

① 平成30年度の就業機会提供結果

#### 【請負事業】

年度	年度末 会員数	就業実人員	就業率	受託件数	就業延日数	契約金額
30年度	1,469人	1,194人	81.3%	15,404件	156,583日	651,909,870円
29年度	1,478人	1,230人	83.2%	15,934件	165,962日	670,755,440円
増・減(△)	△9人	△36人	△1.9%	△530件	△9,379日	△18,845,570円

【シルバー派遣事業】 ◇平成 29 年度は初年度のため、※の計算方式は異なります。

年 度	年度末 派遣登録会員数	就業実人員	就業率	受注件数	就業延日数	契約金額
30年度	64人	60人	93.8%	24件	5,705日	28,789,070円
29年度	37人	7人	※ 100%	1件	552日	5,526,794円
増・減(△)	27人	53人	△6.2%	23件	5,153日	23,262,276円

② 自主事業の実施状況

会員の知識や能力を生かすための自主事業を積極的に実施しました。

ア. 自転車リサイクル事業については、「なかの区報」及び区役所庁舎内掲示板を通じてのPRやイベント等に積極的に参加しました。また、四季の森公園での販売が広く周知されてきたこともあり、販売台数は395台(33台増)となりました。

イ. 各種教室(講座)事業

講 座 名	対 象	会 場	受講者数
学習教室	小・中学生 (小学生3~6年生/中学生1~3年生)	南部・北部分室	29人
暮らしの書道	社会人	南部・北部分室	32人
英会話教室	社会人	南部・北部・江古田分室	93人
万葉集講座	社会人	北部分室	21人
パソコン教室	社会人	南部・北部・江古田分室	841人

4 就業相談と各種研修の充実〔定款第4条2号及び4号事業〕

(1) 就業相談の充実

事務局内において、来所者(会員及び区民)に対し就業相談を随時実施しました。また、会員懇談会の際にも就業相談を適宜実施しました。

(2) 新規会員の登録と研修の充実

① 会員の入会登録時に、センター事業の特色や仕事内容、シルバー事業がサービス業であることを前提として、就業時の仕事態度や接客マナー、報告書の書き方等の説明を行うとともに、適正就業や地域班活動への参加などに役立つよう、入会相談の充実を図りました。

② 会員の入会登録時及び会員懇談会等の際に、仕事に対する知識とセンター会員としての意識啓発をはじめ、仲間づくりや社会奉仕活動への参加を高めるための導入研修を実施しました。

《新入会員研修》 出席者数 267人 / 登録者数 212人

◇月3回開催 4月、7月

◇月2回開催 5月、6月、8月~3月

※7月(2回)北部分室、2月(1回)江古田分室開催

(3) 接客術向上及び各種研修・講習

ア. 自主研修・講習

\* ( ) 内は実施回数

① 初心者向けパソコン講習会 4・8・10・11・1月 211名参加  
(区民対象 / 区との共催) (32回)

②除草班新人研修（座学・実技）	4・9月（2回）	6名参加
③植木班技能向上研修	5・3月（2回）	42名参加
④家事援助サービス新入就業会員研修	5月（1回）	8名参加
⑤表具班「ふすま・障子はり講習会」（区民対象）	8月（1回）	13名参加
⑥家事援助サービス（掃除）就業会員研修	8月（2回）	40名参加
⑦駐輪場管理者接遇力向上研修	2月（2回）	87名参加
⑧暮らしのサポート隊清掃研修	2月（1回）	10名参加
⑨家事・福祉・子育て支援サービス勉強会	2月（1回）	33名参加
⑩家事・福祉・子育て支援サービス年度末大相談会	3月（3回）	49名参加
⑪交通安全・防犯講習会	3月（1回）	7名参加

#### イ.東京しごと財団主催の研修・講習

①役員研修「決算監査と監事の役割」	4月（1回）	1名参加
②家事援助サービス基本研修（第1回）	7月（1回）	2名参加
③植木の剪定講習（初級）	6月（1回）	1名参加
④毛筆筆耕講習（宛名書き）	7月（1回）	2名参加
⑤役員研修「適正就業ガイドライン」	7月（1回）	1名参加
⑥刈払機作業従事者安全衛生教育講習	9月（1回）	1名参加
⑦シルバー人材センター安全大会	9月（1回）	2名参加
⑧ハウスクリーニングⅠ	11月（1回）	1名参加
⑨ハウスクリーニングⅢ	11月（1回）	1名参加
⑩家事援助サービス基本研修（第2回）	11月（1回）	1名参加
⑪保育施設等補助スタッフ業務講習（第2回）	11月（2回）	2名参加
⑫シルバー人材センターフォーラム	11月（1回）	2名参加
⑬毛筆筆耕講習（賞状書き）	12月（1回）	2名参加
⑭シルバー人材センター役員研修「経営管理」	1月（1回）	1名参加
⑮保育施設等補助スタッフ業務講習（第3回）	1月（2回）	3名参加
⑯パソコン出張サービス講習	1月（1回）	2名参加
⑰襖の張替え	3月（1回）	1名参加

#### ウ.第3ブロック主催の研修・講習

①第3ブロック安全就業研修	9月（1回）	5名参加
②第3ブロック代表理事等会議 「地域貢献活動について」	11月（1回）	2名参加
③第3ブロック役員研修 「シルバー人材センターの将来展望について」	2月（1回）	6名参加
④第3ブロック会員研修「就業におけるコンプライアンス」	3月（1回）	10名参加

#### エ.その他の研修・講習

①NRⅠ顧客セミナー 「新エコノミー時代の社会を支えるシルバー人材センター」	6月（1回）	5名参加
---	--------	------



②中野区社会福祉協議会

7月～9月（5講座）8名参加

「介護予防・生活支援サービス担い手養成講座」11月～1月（3講座）4名参加

#### （4）調査研究

- ① 他センターの先進事例等を調査し、優れた事案については当センターにも取り入れ、理事会の経営力を高めることによりセンターの円滑な運営に努めました。
- ② 未就業会員への現況調査及び全会員に対し、機関誌「シルバーなかの」についての調査を実施し、今後の円滑なセンター運営のため現状把握に努めました。

#### 5 適正就業の取組み〔定款第4条4号及び5号事業〕

法令を遵守した適正就業対策の強化を目指し、これまでの自主点検や東京しごと財団の指導等を踏まえ、請負契約内容の確認・調査、契約書や仕様書の整備、就業期間の設定基準の見直しを行うなど、適正就業の改善に取り組みました。

センターとしては、会員へ1件でも多くの就業機会を提供できるよう、お客様へ適正就業の趣旨を十分に説明し、請負契約が成立するよう努めました。

また、新たに開始したシルバー派遣事業についても、法令遵守、適正就業を念頭において事業を推進しました。

#### 6 シルバー派遣事業の着実な推進に向けて〔定款第4条1号及び5号事業〕

シルバー派遣事業については、高齢化が進行する中、高齢者である会員の皆さんの知識や経験等をさらに生かし、請負というこれまでの会員就業の枠組みに加え、多様な就業機会を提供するための新たな事業です。平成31年3月末の時点では、東京58センターのうち52センターにおいて、派遣事業の実施もしくは派遣事業所が開設されています。

平成29年4月1日付けにて、派遣事業所（東京しごと財団派遣事業所）を開設しました当センターの派遣事業は2年目を迎えました。初年度からの東部区民活動センター運営委員会との契約のほかに、新たに保育園8園での子どもの遊び相手、身の回りの世話、散歩の付き添い、給食介助・あと片付け、掃除・洗濯等の保育補助業務契約を加えた9件の派遣契約でスタートしました。一般的に保育補助人材の確保が難しいとされる中で、センターにおいても同じ状況でしたが、綿密な調整や会員の協力により、最終的に受注件数24件、就業実人員60人、契約金額28,789,070円と、昨年度を大きく上回る実績をあげることができました。

#### 7 安全就業対策等の推進〔定款第4条4号及び5号事業〕

高齢者の就業においては「安全就業」が最優先であり、安全就業対策の取り組みとその実践が重要です。

ここ数年、安全管理委員会では安全パトロールの回数を増やし、様々な職群から委嘱されている委員の多様な視点から、就業現場を十分確認しつつ、安全就業対策を継続してきました。

しかしながら、事故件数は昨年度の21件から6件増の27件（傷害事故21件、賠償事故6件）となり、特に傷害事故が昨年度14件から7件増の21件となってしまいました。

昨年度まで減少傾向にあった件数が増加してしまったことで、安全就業対策の難しさを改めて痛感する結果となりました。

#### （1）安全就業の徹底

- ① 新入会員へ「安全就業の心得」及び「会員の安全就業基準」を配付、また、「シルバーなかの」「シルバー速報」のほぼ毎号に安全に関する記事を掲載し、安全への意識を高めることに努めました。
- ② 安全管理委員会を年4回開催し、安全就業パトロールについては委員会の開催時期にあわせて年4回実施しました。委員会開催の数日前にパトロールすることにより、就業現場のタイムリーな状況について話し合うことができ、より活発に委員会を運営することができました。

また、11月には東京しごと財団の安全就業パトロール指導員とともに、就業現場を視察し、事故原因などを分析して事故発生の防止に取り組みました。

- ③ 地域班、職群班会議では、事故発生状況などをできるだけ詳細に説明し、事故に関する情報共有のもと、安全意識の喚起に努めました。

#### （2）事故防止対策

- ① 安全保護具（ヘルメットや安全ベルト）の着用徹底を図りました。
- ② 熱中症対策として、機関紙等を通じ炎天下や非常に暑い場所での、長時間作業を避けることや、水分を十分に補給するなど、注意・喚起に努めました。また、クールネックを屋外業務の就業会員を中心に配付し、予防に努めました。
- ③ 作業用の道具や器具等の安全点検を実施し、事故の未然防止に努めました。
- ④ 安全就業パトロール指導員による作業現場の巡回指導を実施し、現場での直接指導や説明により、安全就業の徹底を図りました。
- ⑤ 安全管理委員によるパトロールでは、事故の未然防止対策として行うKYK（危険予知活動）や、その実施のために行うKYT（危険予知トレーニング）を、現場で直接就業会員に周知し、委員と就業会員が現場で一緒に実践することで、普及に努めました。
- ⑥ 就業途上の交通事故対策として実施している、安全管理委員会主催の交通安全・防犯講習会を行いました。また自転車利用者のみならず、普段、自転車を使用しない会員も対象として、利用者と歩行者、双方の観点からの注意喚起を図り、就業途上の事故防止に努めました。
- ⑦ 就業中、就業途上問わず傷害事故が発生していることから、出かける前や就業前の準備として、十分に体をほぐし、安全意識を高め事故の未然防止対策として考案した「シルバー体操」を、職群班会議や研修、安全管理委員会等の開催時に全員で行うなど、その普及に努めました。

#### （3）健康管理

- ① 生活習慣病健康診断の受診を推奨しました。
- ② 熱中症対策・予防や蜂さされなど、季節に応じた健康管理について、各種会議や機関紙等により周知・喚起しました。

## 8 地域班活動について〔定款第4条3号及び5号事業〕

センターは「自主・自立」「共働・共助」の基本理念に基づき、会員自らが自主的・主体的な組織運営を行い、会員同士が助け合う共働・共助を特徴とする団体です。

また、センター事業が地域社会に理解・評価され、具体的な形で地域社会に貢献することは、センターの発展のために不可欠なことです。そのため、居住単位での地域班によるクリーンキャンペーンや、道路清掃等の社会奉仕活動が地域社会の理解を得る上で効果的であり、地域班の会員一人ひとりが地域班活動の意義を理解し、継続的に実践することが重要です。

平成30年度においても、各班の班長、副班長、連絡員等の役員が中心となり、班単位またはブロック単位で、年2回の会員懇談会のほか、ボランティア、各種講習、親睦交流会、「班だより」の発行等の様々な活動が実施され、会員同士の連帯感の醸成と会員相互の交流を促進することができました。こうした活動を踏まえ、各班の活動状況について機関紙等に掲載するなど、適宜情報提供に努めました。

他にも昨年に引き続き「シルバーまつり」の開催にあわせ、各班やブロック、協力会員からの活動紹介や作品展示等があり、センターに関するPR活動に貢献しました。

## 9 ボランティア活動状況〔定款第4条3号事業〕

### (1) クリーンキャンペーン（駅周辺の清掃及びポケットティッシュ配布）

5月・11月（2回） 226名参加

### (2) 東京マラソン祭り2019環境ボランティア 3月（1回） 35名参加 （ごみの分別廃棄案内・会場美化活動・来場者の誘導など）

### (3) 学習支援活動『夏休み学習教室』 8月（2回） 4名参加

### (4) 区民サービス『初心者向けパソコン教室』（区との共催） 4月・8月・10月・11月・1月（32回） 96名参加

### (5) 区内公園等の花壇造り及び維持・管理 原則毎週1回 8名程度で活動 （上鷲宮地域）

### (6) 松が丘・上高田・新井地区の地域団体主催のマナーキャンペーン 6月・11月（2回） 10名参加

## IV 公益社団法人として

センターは、社会参加の意欲ある健康な60歳以上の高齢者に対し、知識及び経験等に応じた就業機会を確保し、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与することを目的としています。身近な地域での就業を通じ、高齢者の社会参加の場を提供するセンターの取組みが、公益社団法人として認定されたものです。

平成30年度は公益社団法人として8年目の運営となりました。景気は緩やかな回復傾向にありましたが、会員数の伸び悩みなどセンター運営にとって厳しい状況でした。

その中でセンターとしては、お客様や会員の様々なニーズに応えるべく、可能な限り努めました。その結果、事業実績は年度当初に掲げた目標を達成することができました。

#### 事業報告の附属明細書

平成30年度 事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条 第3項に規定する附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

公益社団法人 中野区シルバー人材センター  
会 長 小 野 光